

普及活動情勢報告（令和2年8月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

農福連携の仕組みを検討 ～高知市農福連携研究会の開催～



施設外就労と直接雇用、それぞれのスキームを検討

7月27日、普及所において「第1回高知市農福連携研究会」を開催し、農福の関係機関と福祉サービス事業所から19名が参加されました（農業：8組織14名、福祉：4組織5名）。会では、昨年度の振り返りと今年度の活動計画を検討しました。今年度の活動目標は①農福連携事例を増やすこと、②農福連携の仕組みを構築することの2本柱で合意しました。

普及所は研究会の事務局として活動を牽引し、高知市で農福連携の取り組みが確立するよう推進していきます。

オンラインで市場と意見交換 ～春野きゅうり部会反省会～



市場との意見交換は、オンラインで

7月27、28、30日にJA高知県春野営農経済センターにおいて、「きゅうり部会反省会」が開催され、生産者54名が参加しました。普及所からはGAPの推進、つる枯病防除対策、IPM実証試験、環境制御導入事例を情報提供しました。3日間で3箇所の市場とオンラインで意見交換し、生産者からは袋詰めキュウリの需要や「いいきゅうりの日（毎月19日）」のPR方法等、今後のキュウリ販売戦略等について積極的な意見交換が行われました。

今後も普及所は、さらなる生産量増加に向け、JAと連携した支援を行っていきます。

上空から露地ショウガの生育状況を確認 ～小型ドローン～



ほ場内に入らなくても
ばっちり確認
だ円形は病気発生箇所

8月4日、普及所は小型ドローンを用いて、露地ショウガ栽培ほ場上空から写真や動画を撮影しました。このドローンは、今年度高知市営農技術会議園芸部会で購入したもので、ほ場に入らずに全体の生育や病害発生状況が確認でき、病気の蔓延対策に繋がることが期待されます。農家から「病気の早期発見に役立ちそうだ」、「災害時の被害状況調査としても使える」などの声がありました。

普及所は、研修会や高知市営農技術会議で成果を報告し、次作の作付けに役立つよう写真を農家に還元していく予定です。

新ショウガの根茎腐敗病をやっつけろ！ ～低濃度エタノール土壌還元処理～



うまく処理できているかな

8月5日、JA高知市長浜支所園芸部において、低濃度エタノール土壌還元処理の実証ほを設置しました。ほ場は、前作根茎腐敗病がハウス全体の3割程度発生した砂地ほ場で行いました。普及所と農協で事前に流量計で流量を測定し、当日は目標の0.7%処理濃度となるよう順調に処理できました。生産者からは「コストはかかるが、病害対策を期待して他の2ハウスも実施する」と意見をいただきました。

今年11月には、新ショウガ栽培が始まります。引き続き病害の発生状況等効果について確認するとともに、産地への情報提供に努めます。

新規就農者受入に関する意見交換会

～春野新規就農者支援チーム会・新規就農者及び指導農業士との意見交換会開催～



活発な意見がでました

8月14、19日にJA高知県春野営農経済センターにて新規就農者支援に関する意見交換会を開催しました。14日は新規就農者・研修生等11名、19日は部会役員・指導農業士4名が関係機関と共に意見交換を行いました。部会からは、中古ハウス活用について議論を深め、普及所として新規就農者確保のための支援を続けることを周知しました。新規就農者からは、就農時に困った事について質問がありました。

普及所はこれからも新規就農者の確保、発展のため関係機関と共に支援を行っていきます。

「夏に学ぶ」 ～JA高知県春野きゅうり部会・キュウリ基礎研修を開催～



質問が次々と

JA高知県春野きゅうり部会では、毎年8月に研修生・新規就農者を対象にキュウリ基礎研修を開催しています。8月14日にキュウリ栽培の基礎及び病虫害防除について、19日は労務管理の基礎及び農業共済について研修を行い、新規就農者を中心にのべ29名の参加がありました。多くの質問がだされ、予定時間も大幅に超過し、「もっと質問したかった」などとアンケートに回答がありました。

普及所では、8月27日に経営管理について普及員が講師を務める講座を予定しています。今後も新規就農者の基礎力向上のための基礎研修は続けていきます。